



## 発生動向等サーベイランス情報

### 伝染性紅斑(リンゴ病)にご注意ください



首都圏で患者数が増加しており、県内でも一部の地域で流行しているため注意が必要です！

感染して10～20日後に頬に赤い発疹等の症状が現れますが、発疹が出る7～10日前に微熱や風邪のような症状が見られることがあり、この時期にウイルスの排出量が最も多くなります。発疹が現れる頃には感染力はほぼ消失しているため、知らないうちに感染し、うつしている可能性があります。

通常は予後良好ですが、妊婦が感染すると胎児の異常(胎児水腫)や流産等を起こすことがあります。

★感染経路：飛沫感染、接触感染

★感染対策：日頃から一般的な感染対策(手洗い、マスク)を心がけましょう。

#### 定点当たり報告数 トップ5 (R6.11.27現在)

1	手足口病
2	新型コロナウイルス感染症
3	マイコプラズマ肺炎
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
5	感染性胃腸炎



伝染性紅斑

## 感染対策のポイント

### シリーズ6:子どもと大人で症状が違う?

感染症の中には、同じ原因微生物によって起こる感染症であっても、子どもと大人で症状・所見が異なるものがあります。伝染性紅斑もその一つです。「リンゴ病」の名前の通り、この疾患の特徴は発症後7-10日で見られる頬の赤い発疹ですが、大人ではこのような典型的な皮疹は稀になります。また、感染初期に見られる発熱・悪寒・頭痛などのインフルエンザ様症状は子ども同様ですが、大人では一度症状が軽快した後7日-10日経過してから関節痛・浮腫・四肢などが出現することがあり、関節リウマチなど他の疾患と間違えられることがあるため注意が必要です。



### 感染症専門家からのアドバイス

伝染性紅斑は、潜伏期間(原因微生物に感染してから発症するまでの期間)が10-20日と、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症と比べると長めですので、家庭内流行が治まるまでに時間がかかることもあります。伝染性紅斑が家庭内で発生した場合には、その後の予定などを立てる際にもその可能性を頭の片すみに置いておくといいでしょう。